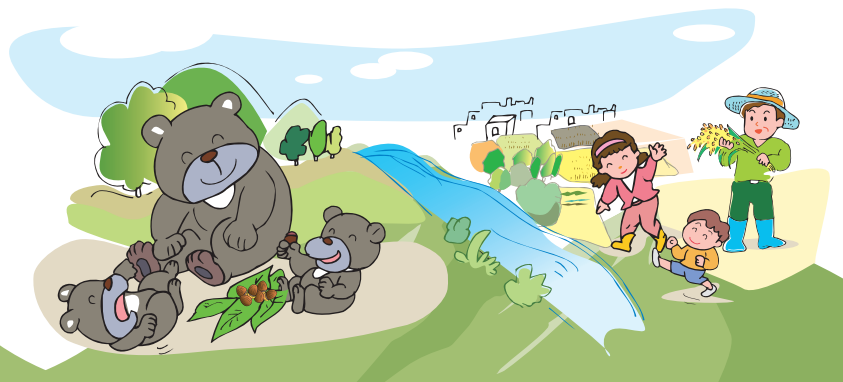


目次



p. 3	I. はじめに	大井 徹
p. 4	II. ツキノワグマの生態と出没予測の考え方	大井 徹
p. 7	III. 大量出没年の予測	
	1. 「鍵植物」の結実状況の早期観測による方法	大井 徹
	1-1. 「鍵植物」と大量出没年の予測	大井 徹
	1-2. 鍵植物の結実状況の診断方法	正木 隆
	—その年の大量出没を予測する—	
	2. ブナの結実にもとづく出没予測	
	2-1. ブナの結実状況の観測にもとづく方法	岡 輝樹
	—1年後の大量出没を予測する—	
	2-2. ブナの結実予測にもとづく方法	正木 隆
	—2年後の大量出没を予測する—	
p.19	IV. 出没危険地域の予測	
	1. クマ出没マップ	大井 徹
	2. 出没マップ作成の考え方	大井 徹
	3. 出没マップの作成	宮本 麻子
	4. 出没助長因子の解析	宮本 麻子
	5. 出没マップ活用上の注意・配慮事項	宮本 麻子
p.34	資 料	
	1) 各都道府県の取り組み（出没年予測）	中下留美子
	2) 各都道府県の取り組み（出没マップ）	中下留美子
	3) 主要食物の調査法	大井 徹
	4) 農地被害の予測：岩手県での事例	岡 輝樹
p.39	謝 辞	
	参考文献	





I. はじめに

ツキノワグマは、本州、四国の森林に生息する大型哺乳類ですが、過去に起きた生息地の劣化や過剰な捕獲により地域によっては絶滅の恐れがあると考えられています。一方、毎年、人身被害と農林業被害が発生し、人間との共存の方法が深刻に問われている動物です。さらに、年によっては、人里への出没が著しく多くなり(大量出没)、人身被害が頻発し、被害防止のため数多くのクマが捕獲されてきました。その度に、出没の原因は何か、被害対策はないのか、捕獲がクマを絶滅に追い込んでいないかなど繰り返し社会問題になってきました。

森林総合研究所では、大量出没に伴う被害を未然に防ぐことを目的に、大量出没のメカニズムを解明した上で大量出没の年や地域を予測する技術を開発することにしました。大量出没を予測できれば、事前に警戒を強め、個体群保全にも配慮した被害防止のための準備を適切に行うことができます。このような試みは既にいくつかの府県で取り組まれています。このマニュアルでは、森林総合研究所が開発した予測方法の他、すでに府県が独自に取り組んでいる方法についても紹介し、今後に役立つように整理しました。既に取り組んでいる府県においても、方法などを再点検し、より優れたものにしていただくための助けになると思います。

なお、このマニュアルは、森林総合研究所が、北海道大学大学院獣医学研究科、茨城県自然博物館、(株)野生動物保護管理事務所と協力して、環境省公害防止等試験研究費を受けて行ったプロジェクト研究「ツキノワグマの出没メカニズムの解明と出没予測手法の開発」(平成18～22年)の成果です。プロジェクトでは、このマニュアルの他に、個別の研究成果を紹介した成果集「ツキノワグマの大量出没の原因を探り、出没を予測する」を制作しました。あわせてご覧ください。

